

今冬の豪雪で、この時期どこまで雪解けが進むのかなと思っていましたが、太陽と春の訪れのエネルギーは凄いのです。あっという間に、白い地面が、土色のそれに変わっていきます。先日、凍み渡り早朝カフェを行いました。その動機は毎朝、犬の散歩で凍った雪面を歩きながらの日の出が素晴らしいこと。北信五岳のモルゲンロートとキラキラ光る雪面。その雪面が締まりとても歩きやすかったことです。幼少期の頃、極寒の2月に、よく雪上で自転車を乗り回したことが思い出されます。本当に、この時期は、エネルギーの躍動感に溢れています。更に、凍り渡りの恩恵がありました。テニスコート内で散歩をしている時、積雪の量が多いので、周囲のネット（冬季は外してある）のひっかけるワイヤーに手が届くではありませんか。これがチャンスとばかりに、ネットを引っ張り出して、すいすいと張ることができました。（高所作業車と軽トラが必要なのに）それも、朝の光を浴びながら！！

こんな素晴らしい自然の恵みとエネルギーを受けていると、とんでもない発想が浮かんできます。（いつも思っているのですが）夜明け幼稚園です。日の出30分前に登園して、朝の光を浴びながらスタートする。もちろん、季節により登園時間が変わります。体内時計とホルモン放出の為に素晴らしい暮らしになると思います。どなたか、希望者はおりませんか！？

そんな季節を味わいながら、相変わらず子ども達は、雪遊び三昧です。卒業の季節を迎えても、行事や練習に追われること無く、淡々とその季節の遊びを目一杯楽しんでいきます。本当の子ども達自身の幸せとは何か を考えた場合、大人側の一方的な思い出作りのお仕着せだったり（卒業式も、ある程度そうかもしれません）する事も多いような気がします。それは、子ども達の生き生きとした顔を日々見ていればわかります。何の強制やしがらみもなく、大人が手と口を出さなければ、子ども達は最高に元氣です。

私たちスタッフと大人も、やはり 手と口を少しでも封じ込めていかねばなりませんね。これがこれからの課題です！！

大地の樹木も芽吹きが始まっています。大人も子どもも、身も心も軽やかになり、手と口を抑制しながら、春の空に向かって元気に飛び出していきます。



【時間と立体的な暮らし】

「おれたちひょうきん族」というバラエティ番組が好きでした。ビートたけしと明石家さんまたちが組んでいた番組。面白いセンスの良いプロデュースがされていた。誰がプロデューサー 構成作家なのかと調べたら、たぶん東大でのキレキレの面白いセンスの持ち主だったような気がします。下ネタもありながらも、気品のあるネタなどが、センスの良い立体構成や日々の暮らしの着眼点をうまくフォーカスしていました。「うまいところに目をつけているな！！」と思って見ていました。

それから、更に好奇心旺盛となり、町並み暮らしウォッチングが好きになりました。もちろん、本や雑誌や新聞（インターネットでは見ない、それは模倣そのものになりそうだから）を見て自分の想像を加えます。暮らしを見るのは、自動車では無理なので、歩く 自転車 小回りがきいて時間を有効に使えるのは、原付バイクです。だから、長野市あたりまでも、バイクで行き来して、センスの良い町並みや建物、お店 そして 不燃物粗大ゴミ置き場まで、機動力を駆使して走り回るのが楽しみです。旅行に出かけても、買い物は好きではないけれど、くまなくお店には入ります（お店にとっては 冷やかし客です）。そして、商品や陳列のセンスを見て頭に焼き付けます。そして、どうしたら、自分で作れるか、自分の粗大ゴミ倉庫リストの何を生かせるかを考え、製作するのが、いつの間にかライフワークになっているような気がします。

唯物的なウォッチングだけでなく、最終的には、素晴らしい人生を歩んでいる 歩んできた人物の生き方 精神的ウォッチングを通じて、その人物の暮らしのセンスを感じ学ぶのが、最高の楽しみです。一例を挙げれば、最近天に昇られた、松岡享子先生などですね。人物もジョークも教養も遊びも製作も、最高のセンスでした。

加えて、それらの方々に通じるのは、時間をしっかりと守り、その時間内でパフォーマンスを最大限に発揮し、時間内にびったりときれいに終わる という凜とした世界でした。時間に始まり時間に終わる、それがビシッと決まるのが最大のプロデュース、マネージメント能力だと学びました。何事もゴールする時間、世界、成果、感動を見据えて、マネージメントしてスタートする（オリンピックゴールドメダリストは、表彰台でかっこよく手を振る自分の姿を描いて勝負に挑むと言われていました）。

神様は、全ての人間に平等に24時間を与えてくれています。それをどのようにプロデュース、マネージメントするかはその人のセンス次第だと考えます。ジグソーパズルのように、青ちゃんは、やるべきことを朝、布団の中で組みます。昼間は、あたふた動き回っていますが、朝の布団の中でもぼんやりした時間が最高のプロデュース時間であり、それが組み立てられたら、即製作実行となります。このプロデュース時間帯は、朝の3時頃から1時間あたりです。夏期は、夜明けが早いので、もっと早くなりますね。

立体的な暮らしとは と言うと、最近皆さんが作った、ピアノコンサートや園遊会でのケーキや、屋根の上でのパフォーマンスです。水平的直線的なものよりも、魅力がありますね。ケーキも、平面的に作るよりも、立体的なものの方が、魅力的で生き生きして美味しそうに見えますし、心揺さぶられます。

あの見事な歌声やバレエも、地面で見るよりは、山々や樹木 青空をバックに立体的な空間で味わうほうが、素晴らしい世界です。

子ども達の遊び 暮らし世界もそのものです。平坦なグラウンドよりも、起伏のある環境、木登り お尻滑り アスレチック 室内での木材や布をかけてのお家作りなど、魅力ある遊びは、ほとんど立体的な世界です。

日本の家屋や建物も、マンションやアパートに代表されるように、直線的水平的な物ばかりです。高層ビルは、上に伸びる立体的な物だと言われるかもしれませんが、箱形の直線的なものだけに、穏やかな魅力が感じられません。人間までも、四角で直線的になってしまうような気がします。柔軟性や人情に欠け、四角四面でマニュアル通りに封建的に生きざるを得ない環境になってしまうような気がします。

自然は、ほとんどが立体的な世界、環境です。地面に這う苔にしても、雨も川も樹木も生き物も立体的です。普段の暮らしで、自分の目線だけで暮らしていると、水平的直線的な見方がほとんどです。登山などをすると、世界が立体的に見えます。山頂では、太陽が眼下から昇ってきます。建物町並みを見下ろせます。雲海が見えます。360度の空を見て、間近に星をのぞめます。まさに、世界が立体的です。

水平的な暮らしに、立体感を取り込めば、暮らしが豊かになります。それは、アウトドア活動でもインドア製作活動でも同じです。センスやアイデアに行き詰まった時、何かをプロデュースする時、立体的な着眼点をすることにより、開眼するときも多々あります。

時間の有効活用と立体的着眼は、暮らしを豊かに面白くしてくれると実感しています。だから、子ども達は 雪おろしが大好きです。なんと言っても、屋根が大好き、そして、そこから見る景色も。だから、屋根に登れる 屋根で遊べる昔の家は素敵です。今度は、そんな家を作りたいですね。

一度でいいから、屋根でのパフォーマンスをお勧めします！！

